

浄光寺板碑 東松山市所在

天台宗 浄光寺







山門











本堂





ここに板碑の標柱が立つが板碑はここには無かった/「浄光寺の板石塔婆」、「念仏縁起絵巻」という二本の標柱



板碑はここに整備されていた



市指定文化財 考古資料

浄光寺の板石塔婆(三基)

(昭和四〇年八月二〇日指定)



建長二年 庚戌三月
成

板石塔婆は、鎌倉時代から戦国時代にかけて、死者の追善供養や死後の極楽往生を願って造立された石製の供養塔婆です。この地域では、緑泥片岩を使用した武蔵型板石塔婆が盛んに作られました。

阿弥陀三尊を半浮彫りにした初期の板石塔婆です。蓮台の上に阿弥陀如来が乗り、阿弥陀三尊来迎図を表しています。建長二年(一二五〇) 庚戌三月の年号が刻まれています。初期の画像板

高さ一六七cm・幅六〇cm・厚さ八・五cm。

二 胎藏界大日三尊を梵字で表し全体に端正に作られています。上部の主尊は胎藏界大日如来で、その下の脇侍は右が不動明王、左は薬師如来です。紀年銘は、永和五年(一三七九) 巳未卯月と刻まれています。板石塔婆造立の最盛期のものです。主尊は天台密教系の宗派で良く用いられるもので、当時の多様な宗派活動の様子がかがえ貴重なものです。高さ一九七cm・幅四九cm・厚さ七cm。



奉造立者 終世
永和五年 巳未卯月
成

三 左右に日月、天蓋と前机に三具足が表現された庚申待板石塔婆です。蓮座の上には釈迦を表す梵字が刻まれています。天正一三年(一五八五)の紀年銘を持ち、約四〇名もの村人の連名が刻まれていることから、共同で作られたことがわかります。市内で最後に造られた板石塔婆であり、また古い庚申待の石造物として貴重です。高さ一三〇cm・幅四九cm。



申待
天正十三年 乙酉十月
成

文化財を大切にしましょう

平成一八年三月

東松山市教育委員会



胎藏界大日三尊 種子板碑/市指定文化財/南北朝時代後期(1379年)



浄光寺阿弥陀三尊图像板碑 / 市指定文化財 / 鎌倉時代中期(1250年)



庚申待(こうしんまち)板碑/市指定文化財/安土桃山時代(1585年)









浄光寺正嘉元年銘断碑/鎌倉時代中期(1257年)



鐘楼







さまざまな石仏



参考ホームページ

<http://www.geocities.co.jp/SilkRoad/7460/saitama-higasimatuyama-iyoukouji-3.html>

